

### 劇場満たす拍手

十六日夜、登米祝祭劇場。夢フェスタ水の里十作目の公演「軽便こ」は時空を超えて、仙北鉄道物語は、初日の高揚感と緊張感に包まれていた。

―下―

# まち結ぶ市民劇

## 登米・夢フェスタ水の里10作目

せりふを忘れないだろうか。場面転換はうまくいくだろうか。出演者もスタッフも、ぴんと張り詰めた空気の中にいた。

ショー・マスト・ゴー・オン(幕を下ろすな)。演(四)は音響ブースで舞台を

も足りず、三つの役を一人

でこなすケースも出てしま

ていく仕組みを考えたい

と、代表の同市登米町の介

川さん。

演劇だけでなく、音楽祭

や絵画展など多彩な芸術文

化を楽しめる祝祭空間にし

たい。会では、そんな未

は下りない。

きている。

自らの手で地域を活気づ

ける心意気が絶えない限

り、まちを結ぶ市民劇の幕

は下りない。

祝祭空間目指す

来年三月の公演を目指す

第一弾が今回の公演で、

南方、迫、中田、登米の旧

四町を走った仙北鉄道を取

り上げ、町域を超えた新た

なスタイルを示した。

一般から募る。

旧町域超え展開

回を重ね参加者の経験値

を終わらせなかったためには、

もう次へ向けて動きださな

いとけない」

「十年続いた夢フェスタ

を終わらせなかったためには、